

【研究の概要】

【研究テーマ】

多様な「観」を愉しむ社会科学習

【問題意識】

昨年度は、「(1)社会的事象について多角的に考えるための手立て」及び「(2)自ら振り返りを行うための手立て」について研究を進めた。

(1)については、様々な視点や立場から、資料を読み取ったり仲間と話し合ったりする姿が多くの子どもの見られた。一方で、複数の意見を踏まえた上で最適解や納得解を導き出そうとする姿は一部の子どもに留まった。このことから、仲間とともに合意形成を図る力を育成することが今後の課題であると捉えた。

(2)については、自分の学習状況を見つめ直したり、思考の変容を記述したりすることができる子どもが増加した。一方で、振り返った内容を仲間と共有し、自分の学びに生かそうとする姿は十分には見られなかった。このことから、振り返りを個人の内省にとどめず、仲間と交流することで自分の見方・考え方を捉え直す力を育成することが今後の課題であると捉えた。

【社会科学習でめざす子どもの姿】

感じる段階	・ 社会的事象や学習問題について調べたり話し合ったりする中で、自分と仲間の見方・考え方を比較する姿
	・ 仲間との交流を通して、自分の見方・考え方を捉え直す姿
調整する段階	・ 社会的事象について多角的に考えた上で、仲間とともに合意形成を図る姿

【研究の視点①】

多様な「観」を子どもから表出させるための手立て

【研究の視点②】

子どもが多様な「観」を愉しむための手立て

【研究内容】

1 仲間とともに合意形成を図るための手立て

社会科研究部では、社会科学習における合意形成を図るとは、社会的事象の見方・考え方を働かせながら対話や議論をすることを通して異なる意見を調整し、学級内の可能な限り多くの子どもが納得できる共通の方向性を見いだそうとすることであると考えている。

(1) 見方・考え方や思考の構造の可視化

子どもが仲間とともに合意形成を図るためには、表出される多様な見方・考え方を理解した上で、複数の考えを比較・統合することが重要であると考えられる。そこで、社会的事象を捉える多様な見方・考え方や、一人一人の思考の構造を可視化する手立てを講じる。具体的には、子どもが捉えた社会的事象の見方・考え方を「社会科の言葉」として換言して示す（昨年度からの継続研究）。これにより、思考の土台となる言葉が共有され、資料を読み取ったり、話し合ったりする際に活用することができるようにする。さらに、ツールミンモデルやマトリクス表などを活用して、主張とその根拠となる事実や資料などを整理する活動を位置付ける。これにより、視点の違いや考えの根拠などを明確にし、複数の考えを比較・統合しながら合意形成を図る姿をめざす。

(2) 自分の見方・考え方の捉え直し

より適切な合意形成を図るためには、様々な立場や意見を踏まえて選択・判断の妥当性を高めていくことが重要であると考えられる。そこで、仲間の見方・考え方に目を向け、自発的な交流が生じるような手立てを講じる。具体的には、学習の深まりに対応した段階的な振り返りの視点を示し、子どもが記述したい視点を選択できるようにする。これにより、選択した視点の違いに着目した交流が生まれ、多角的な視点で振り返っている仲間の記述を手がかりに、自分の見方・考え方を捉え直す契機とする。また、子どもとともにループリックを作成し、それを基に子ども同士で相互評価する活動を単元の中に位置付ける。これにより、仲間の見方・考え方のよさに気づき、仲間の見方・考え方を参照しながら自分の見方・考え方を捉え直し、合意形成における選択・判断の妥当性を高めていく姿をめざす。

1 単元名

縄文のむらから古墳のくにへ

2 単元の目標及び評価規準

(2)、ア(ア)(シ)、イ(ア)、内容の取扱い(2)アイウエキ

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、遺跡や地図等の資料で調べ、むらからくにへと変化したことを理解するとともに、文や年表等にまとめることができる。	世の中の様子や代表的な文化遺産等に着目して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、世の中の変化や米づくりを取り入れることの是非について多角的に考え、表現することができる。	狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、学習問題を追究・解決したり、歴史を学ぶ意味を考えたりしようとする。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、むらからくにへと変化したことを理解している。	① 世の中の様子や代表的な文化遺産等に着目して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、世の中の変化やその要因について多角的に考え、表現している。	① 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。
② 世の中の様子や代表的な文化遺産等について、遺跡や地図等の資料で調べたり、調べたことを文や年表等にまとめたりしている。	② 学習したこと等を基に、米づくりを取り入れることの是非について多角的に考え、表現している。	② 学習したこと等を基に、歴史を学ぶ意味について考えようとしている。

3 単元について

本単元は、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、世の中の変化とその要因について考えることを通して、我が国の歴史に対する興味・関心を高めることをねらいとしている。

大陸から伝来した稲作により食生活や道具、生活様式が大きく変化し、縄文時代から古墳時代にかけて、むらは次第にくにへと発展していった。一方で、米や土地をめぐる争いや身分の差が生まれるなど、社会の変化も生じた。また、この時期は、こうした変化を背景として国土の統一が進んだ時期でもある。このような歴史上の事象について調べたり、変化の要因について考えたりすることを通して、現代の生活と比較・関連付けながら、我が国の歴史に対する興味・関心を高める姿が期待できる。

本単元を学習することは、仲間との交流を通して、歴史上の事象について自分の見方・考え方を捉え直したり、多角的に考えたりする力を養う上で意義深い。

4 子どもについて

子どもは、第6学年単元「わたしたちの生活と政治」において、現代の日本の政治の仕組みや働きが日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを学習している。特別の教科道徳の「自由と責任」をテーマとした学習においては、国民の権利を想起しながら自由の許容範囲について考える姿が見られた。歴史学習に対しては、関心が高い子どもが多く、歴史上の事象や人物について豊富な知識をもつ子どももいる。しかし、歴史上の事象について、その要因や関連、現代とのつながりを考えるまでには至っていない。また、社会科学学習においては、社会的事象の見方・考え方を働かせながら資料を読み取ったり、意欲的に話し合ったりする姿が見られる。今後は、社会的事象について多角的に考えた上で、仲間と合意形成を図る経験を積み重ねていく必要がある。

抽出児について

※ 個人情報保護の観点から、省略します。

5 研究内容

本単元における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

縄文時代から古墳時代の事象について調べたり話し合ったりする中で、自分と仲間の見方・考え方を比較する姿。仲間との交流を通して、縄文時代から古墳時代の世の中の変化に対する自分の見方・考え方を捉え直す姿。米づくりを取り入れることの是非について多角的に考えた上で、仲間とともに合意形成を図る姿。

1：仲間とともに合意形成を図るための手立て

(1) 見方・考え方や思考の構造の可視化

本単元では、子どもの発言や記述を「特徴」や「関係」等の「社会科の言葉」に換言して示す。そうすることで、思考の土台となる言葉を共有し、資料を読み取るときや話し合いのときに活用することができるようにする。

本時では、学級を縄文時代のむらと見立て、米づくりを始めるべきかどうかについて話し合う場面を設定する。そうすることで、トゥールミンモデルを活用して整理した主張やその根拠となる資料を明確にしなが話し合い、食料の安定確保や生活の安全性など様々な視点から考えた上で、合意形成を図ろうとする姿を期待したい。

(2) 自分の見方・考え方の捉え直し

本単元では、学習の深まりに対応した段階的な振り返りの視点を示す。そうすることで、視点の違いに着目して交流しながら、それぞれの時代を比較したり、現代の生活とのつながりを考えたりするなど、多角的な視点で振り返っている仲間の記述を手がかりに、自分の見方・考え方を捉え直すことができるようにする。

本時では、振り返りの視点を「見方・考え方」と「仲間のよさ」に限定し、振り返りの記述を比較しやすくする。そうすることで、自分とは異なる見方・考え方をしている仲間の記述のよさに気付いたり、価値付けたりする姿を期待したい。

6 単元指導計画（11 時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	思考・表現	態度
生み出す (1)	1 大昔のくらしについての疑問を基に、単元を貫く学習問題を設定し、予想を立てる。〈1 時間〉 ○ 3つの時代の違い 〈単元を貫く学習問題〉大昔のくらしや技術は、どのように変化したのだろう。	○ 衣服・墓・土器の資料をそれぞれ3枚提示することで、素材や形などの違いから異なる時代の物であることに気付き、どのように変化したのかという疑問をもち、単元の学習問題を設定することができるようにする。			① 発言分析 記述分析
挑む (4)	2 縄文時代と弥生時代のくらしについて調べ、変化やその要因について考える。〈4 時間〉 ○ 縄文時代と弥生時代のくらしの様子と違い (2) ○ 米づくりの始まりとそれに伴う変化 (2)	○ 縄文時代と弥生時代のむらの想像図や主な食べ物、道具の資料を提示することで、それぞれの時代の特徴やくらしの様子を捉えることができるようにする。 ○ 縄文時代と弥生時代のむらの想像図を比較する活動を設定することで、様子の違いから、争いが始まったことや身分の差が生まれたこと、それらの原因が米づくりであることに気付くことができるようにする。	② ↓ ①②	① ↓ ①	① ↓ ①
生かす (3) 本時 3/3	3 米づくりを取り入れることの是非について考え、話し合う。〈3 時間〉 ○ 自分たちのむら (1) ○ 自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうか (2)	○ 「6年2組全員で縄文時代にタイムスリップし、生活する」という設定を提示することで、自分たちのむらの立地や必要な役割を考えることができるようにする。 ○ 上記で考えた自分たちのむらで、米づくりを始めるべきかどうかを話し合う時間を設定することで、仲間の考えを基に多角的に考え、合意形成を図ろうとすることができるようにする。		②	② 発言分析 記述分析
挑む (2)	4 古墳や大和朝廷について調べ、それらの意味や働きについて考える。〈2 時間〉 ○ 古墳の意味 (1) ○ 大和朝廷の働き (1)	○ 古墳の大きさやつくり方を調べる活動を設定することで、古墳をつくる費用や動員人数などに着目し、古墳づくりが権力の象徴であったことを理解することができるようにする。	② ↓ ①②	① ↓ ①	① ↓ ①
生かす (1)	5 単元の振り返りとまとめを行う。〈1 時間〉 ○ 単元の振り返りとまとめ 〈単元のまとめ〉狩猟・採集の生活が、稲作の伝来によって農耕の生活になり、米や土地などをめぐって争いが始まった。むらはくにへと発展し、大和朝廷によって国土が統一されていった。また、外国との交易により、道具や武器などをつくる技術が発展した。	○ 縄文時代から古墳時代にかけての学習内容をまとめる際にループリックを作成することで、重要な用語を確認しながらまとめを記述することができるようにする。	①②		② 記述分析

7 本時の目標

仲間との対話を通して多角的に考えたことを基に、自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうかを判断し、表現することができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1 本時の学習について確認する。 ○ 本時の学習問題 星座むら（自分たちのむら）で米づくりを始めるべきだろうか。 2 自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうかを対話する。（★） ○ 米づくりを始めるメリット・デメリット（例） ・ 米づくりを始めるべき。狩猟・採集の生活よりも食料が安定していて、安心して生活できるから。 ・ 米づくりを始めるべきではない。米づくりをきっかけに争いが始まると、むらは平和ではなくなるから。等 3 仲間との対話を基に、自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうかを判断する。（★） ○ 米づくりを始めるべきかどうか ・ 対話後の自分の考え 4 自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうかを議論する。 ○ 問題点（例） ・ 争いが起こること。 ・ 身分の差が生じること。 ・ 労働力が必要なこと。等 ○ むらとしての結論（例） ・ 米づくりを始めるべき。ただし、周辺のむらと話し合って、土地や水についてきまりを決める。等 5 本時の学習を振り返る。 ○ 本時の学習の振り返り（例） ・ 食料の安定と生活の安全を比べると、私は安全の方が大切だと思った。 ・ ○○さんの意見を聞いて、未来へのつながりという視点でも考えることができた。等	○ 前時までにつくった自分たちのむらについて確認することで、食料の確保、役割、仲間との関係など様々な視点から、むらの様子を想起することができるようにする。 ○ 仲間と対話する時間を設定することで、ツールミンモデルを活用して整理した主張やその根拠となる資料を基に、自分の考えを伝えたり、仲間の考えと比較したりすることができるようにする。 ○ 米づくりを始めるべきかどうかについての子どもの意見を、「社会科の言葉」を用いながら整理し、板書することで、米づくりを始める際の問題点を明確にすることができるようにする。 ○ 自分の考えを見つめ直す時間を設定することで、「食料の安定」や「生活の安全性」等の視点及び役割による考え方の違いを考慮した上で、米づくりを始めるべきかどうかを判断することができるようにする。 ○ 「米づくりを始めたら絶対に争いが起こるのか。」と問うことで、争いが起こる原因に立ち返り、問題点を解決する方法を考えることができるようにする。 ○ むらとしての結論を問うことで、問題点を解決する方法を比較・統合しながら合意形成を図ろうとすることができるようにする。 ○ 振り返りの視点を「見方・考え方」と「仲間のよさ」に限定することで、問題点を解決する方法を比較したり、仲間の意見を基に自分の見方・考え方を広げたりしたことなどを自覚することができるようにする。

9 本時の評価規準

仲間との対話を通して、食料の安定確保や生活の安全性、未来へのつながりなどの様々な視点から考えたことを基に、自分たちのむらで米づくりを始めるべきかどうかを判断し、表現している。

（思考・判断・表現②）【発言分析・記述分析】

6月29日(月) 学習問題 星座むらで米づくりを始めるべきだろうか。

十歳カ(役者負担)
平和

始めるべき

始めるべき

地形 米づくりに適した土地
安定 食料が安定する
向上 食事がよくなる

始めるべきではない

米づくりがうまくいっても
人手・役割が不足
争いがあるかも

大変さ
安全

<問題点>

争いがある可能性 → 1. 他のもうと協力する
(絵で伝える)

作業の大きさ → まずは1, 2個の田んぼ
をつくってみる。

おそれないようにじんじん

↓

星座むらでは、米づくりを始めるべき。
ただし、1. 他のもうと協力をするのみ。
おそれないようにじんじんしてから
1, 2個の田をつくってみる。